

地域力
Local Power

市民ボランティアによる塾や幅広い子育て支援など、豊後高田市は地域のニーズに基づいた市民活動が活発だ。活気ある住みよい町は市外の視線も引き寄せ、今や「住みたい田舎」として全国的な知名度も高い。分科会では、さまざまなフィールドで活躍する若手リーダーたちがまちを元気にする「地域力」について語り合った。



長崎鼻の菜の花畑

「ストレス」のないまち

市をイメージする色は

中野 今日は「地域力」について話していきたいと思います。まずは自己紹介から。私は県政で主に生活環境、福祉保健部を担当しています。事前に何度かこちらに足を運んでいます。市の公式ブランドマーク「全力発展中」があちこちで目につきました。今日は熱い議論をお願いします。

有永 「長崎鼻B・Kネット」というNPO法人に所属しながら、農業全般もしています。

近藤 中小企業家同友会の豊後高田支部長も務めています。よろしくをお願いします。

小川 子育て支援団体に施設長をしています。

小野 市役所に入って24年。今日は皆さんがいて心強く思っています。

二宮 大分銀行から出向しており、成長する企業に投資する仕事をしています。本日は金融機関、外部としての目線で意見が言えたらと思います。

中野 皆さんに事前にお会いした中で、市をイメージする色について聞きました。有永さんはオレンジ色と。理由と今の市に対するイメージを話してください。

有永 真玉海岸の夕日の赤、長崎鼻のヒマワリや菜の花の黄色、昭和の町のセピア色で交わったらオレンジかなと。僕は香々地生まれで、高校卒業後県外に出て、5年前に戻ってきました。帰ってきた時には昭和の町が盛り上がり、観光客が押し寄せているのに驚きました。長崎鼻も頑張って観光資源になれたらと思って働いています。豊後高田は住みやすく、愛着も湧いてきました。

中野 近藤さんは赤。

近藤 全力発展中で燃え上がっている状態

で、赤は力強さのある色。市のいいところは、地域のことを思う人がたくさんいるところ。人材は財産です。声掛け一つでみんなが集まり、一つの力になって奇跡が起きる。日ごろのコミュニケーションがきっちりおとれているからだと思います。

中野 小川さんはピンクでした。

小川 人の優しき、ハートですぐにピンクが浮かびました。子どもたちが人や地域に対して愛情深く育つようにと、温かく接している人が多い。

小野 私は青。市はいろいろな施策を進め成熟してきたと思っているが、まだまだフレッシュな気持ちで前に進まなくてはいけない。自分に拍車をかける意味で青。

若手リーダー
市企画情報課総務主幹兼市政
プロモーション係長
小野政文 さん

全国的に知られた施策

中野 市外からUターンする人が結構いるという話を聞きましたが、どういう理由があるんでしょうか。

近藤 家庭の事情もあり、一概に市に魅力があるからとは言えない。ただ、豊後高田市は子育てや教育の取り組みなど、全国的に知られていることが多く、魅力的に感じるのではないのでしょうか。

中野 行政はどういった情報発信をしていますか。

小野 プロモーション係は市民のまちへの愛着を深めるのが仕事。対外的な露出で知名度を上げるとともに、住んでいるまちのことを知らせ、愛着を感じてもらおうという二つの方向性を持っている。

小川 夫の仕事の関係で帰ってきたんですが、自分の時にはなかったけど、こういうものがあつた子育てや介護がしやすく、住みやすくなるなど、まちのことを真剣に考えるようになった。NPOを立ち上げた理由も、子育てをしやすいま

ちにしたいという恩返し気持ちからです。親の声を聞き、届けることが重要と思っています。

中野 市の住民3万人構想については。

小野 移住者による社会増は今年になって80人くらい。移住という60歳以上が多かったが、今は全世代にわたります。

小川 私たちのスタッフの半分くらいは市外から嫁いできた人。他の地域のアイデアを聞くことができ、良いバランスと思っています。外からの視点を暮らしやすいまちづくりや、移住定住につなげるにはどうしたらよいかを考えていかなくては。

近藤 昭和の町をきっかけに起業する人もいるし、ダイハツ効果で中核工業団地の周辺に会社も進出している。雇用面からいうと人は足りない状況で、中小企業者は困っています。

親世代から意識を継承

中野 大学を卒業して帰ろうとしても、働く場がないという声があります。

近藤 企業の本社機能東京一極集中ではなく、日本各地に分散することができれば、雇用創出や人口分散につながるのです。

中野 地元の事業主は地域経済に貢献するために話し合いをしています。

近藤 まずは自助努力が大切なので、市民に対するサービスをしっかりやろうと。市は中小企業基本振興条例の制定に頑張っているところで。条例案は同友会や商工会議所、商工会が一体になって上程したもので、民間の声から生まれた。誰が首長になっても変わらない中小企業政策をとってもらうのが目的です。金融や教育についてや、市が発注する業務はなるべく地元の業者を使うといった内容で、地域内循環が基本にあり、地元の中小企業の後押しになると思います。

中野 経営者の意識は高いですね。

若手リーダー
大樹代表取締役
近藤洋介 さん

近藤 このままではまちが消滅するのではないかという危機感を持っています。まちがたちゆかなければ商売は成り立たず、子どもたちもまちに残ろうと思わない。われわれが元気に商売して、その姿を子どもや地域の人に見せなくては。

中野 ところで、長崎鼻の取り組みは休耕田の再生として注目されていますね。

有永 活動をもっと知ってもらおうという共通意識はぶれていません。そのため何をすべきかを日々話し合い、次々と案を出している。スタッフは24歳から64歳の12人で、営業と景観をつくる部門に分かれています。

中野 若い力が動いているんですね。

有永 親世代の意識を受け継ぎつつ、発展させていくのが僕たち若い世代の使命と思っています。

小野 豊後高田の若い力は自慢です。

女性の就労時間が課題

中野 子育てでママの働く環境はどうですか。

小川 母親たちの声を聞き、市や商工会議所の力を借りて、どういう形なら働けるかを探っています。保育環境も同時に整備する必要があります。給与面はもちろんですが、勤務時間や終業時間、保育が終わる時間など、時間を気にしている母親が非常に多いというのが現場の実感です。

中野 フレックスタイムや在宅ワークなど、子育て中でも働ける仕組みができるといいですね。

小川 在宅ワークを推奨する企業もありますし、ワークシェアや短時間就労など、少しずつではあるが可能性が広がっています。

近藤 地元で人を雇用しようとしても人が集まらず、女性の活用は何とか取り入れていきたい。

就労時間の問題は職種によっては難しい面もあり、今後の課題です。

中野 病後児保育も立ち上げたそうですね。

小川 どうしても仕事を休めない時に、地縁血縁もなく、子どもの預け先がなくて困ったという声を聞きます。

平成25年から26年で利用は3倍に増えており、重要な施策です。

中野 そういう支援があれば仕事を続けられる。

小川 私たちも地域の元看護

師、元保育士、シルバー世代に助けてもらっています。地域力は子育て支援に不可欠で、まちづくりの面でも重要。資格や特技を持っている人は地域に多いので、どんどん参画してほしいと思っています。

中野 女性が活躍している職場の事例はありますか。

二宮 女性人材の雇用や登用は国策ですが、中小企業では難しい面がある。国東市の地元の有志が出資を集めて農業法人をつくり、10人前後の女性の雇用を確保した例があります。代表者は農業未経験の30代女性で、出資者の中に農業経験者がいて、技術を指導すると聞いている。

農業指導をする仕組み

中野 耕作放棄地の解消、女性の活用、地域経済の活性化につながりそうですね。市の雇用創出、産業振興で力を入れている部分は。

小野 移住者が増える中で、アグリチャレンジスクールといって農業指導する仕組みがあります。

中野 高田は話題が尽きないですね。すごい企画力だと思います。まちづくりの様子見、傍観している人を巻き込むいい方策はないですか。

近藤 飲みニケーション(笑)。飲みに出て、商売や地域のことを話していることが多いです。仲間は多い方がいい。移住してきた人の外からの視点が高いいですね。市職員の若手の機動力もすごい。まちづくりには行政の手腕は欠かせません。

中野 住んでいる人が楽しいと思える環境には何が必要でしょうか。

小川 子育てをしている人がきつそうだったら、それを見ている次世代は産もうと思わないかもしれない。子育てをしなくなる環境づくりが必要。

小野 高校生の娘は市を出たがっているが、一度出ることも必要だと思います。自分なりに成長して、何かを持って帰ってきてほしい。

近藤 子どもたちがこの地域にいたいという気持ちがないと、人口は減り、地域は成り立っていかない。例え戻ってこなくても、地域に対する貢献は外からでもできる。地域のことを忘れずにいてほしいです。

二宮 長崎市は観光客が減少している時に、地元の人たちがガイドをするまち歩き観光「長崎さるく」を始めて、観光客の増加につながった。親と一緒に参加した地元の子どもたちが市の歴史を知り、郷土愛の醸成につながったというケースがあります。

屋山城跡の登山道整備

中野 地元の人しか知らない面白いスポットは。

小野 「国東半島峯道ロングトレイル」で山歩きをすると、魅力的な場所を見つけることができます。地元出身の戦国武将・吉弘統幸(むねゆき)ゆかりの屋山城跡の登山道を整備し、山頂に

展望スポットもつくりました。統幸を顕彰しようと、地元グループも熱心です。

近藤 誰か豊後高田の昔話をアニメ化してくれないかな。

小野 来週、市民チャンネルで市の歴史の絵本を紹介する番組があるんですよ。初回は九十丸の石段がある熊野磨崖仏(まがひづつ)の話。

近藤 それはいいですね。

小川 自分のまちのことだと親近感が湧きますね。市が昔、「仁王像マツ」を出してくれて、娘といろいろな仁王像を見に行きました。夏休みの宿題として絵も描いて。いい思い出になり、地域を知ることでもできました。

近藤 高校生や大学生になった子どもたちは市外に出た時に市の広報部隊、宣伝マンになる。自分の地元が好きなら、堂々と話題にしようと思う。

中野 地域への誇りですね。

小川 息子から「豊後大たいまつ」を絵に描くのが宿題と聞いた時、何て素晴らしい宿題だろううれしかった。子どもたちに豊かな体験をさせ、五感を使うことが重要だと思います。

二宮 きっかけを与えることが大事ですね。

パズルのピース増やす

中野 まちづくりも産業振興も教育と密接に結び付いていますね。

近藤 次代を担うのは子どもたちです。

中野 市営の塾「学びの21世紀塾」もあります。

小野 元教師や塾講師が、ほぼボランティアで教えてくれている。

小川 夏期冬期も集中講座を開いてくれて、ありがたいですね。

中野 市民の力が行政を動かし、大きな力になっている。出産祝い金も復活したそうですね。

小川 あつた方がいいという取り組みを真剣に聞いているので、本気で考えてくれる市に恩返ししたいと、こちらも本気になります。

中野 本音でぶつかり合うことで信頼関係ができるんですね。市民と行政がつくった政策なら、携わったというシンパシーが湧く。

二宮 すばらしい地域だと思います。

近藤 まだまだ関わる人を増やし、パズルのピースを増やしていかなければ。

中野 外から来た人も巻き込んでいきたいですね。

小川 東京から移住してきた人に、「ここではストレスという言葉聞きませんね」と言われたことがある。

有永 確かに以前はいつも何かに追われていたという感覚がありましたね。

移住の理由見つめ直す

中野 人間関係や自然環境が影響しているんじゃないか。移住者が高田を選ぶ理由を見つめ直してみるのもいいかもしれませんね。

近藤 子どもはマクドナルドや映画館がないと文句を言いますが、たまに行くから楽しいんだと。柳ヶ浦駅も宇佐駅も車で15分くらい。空港は1時間かららず、そう不便なことはない。駅や空港ができると人口が流出するリスクもある。

中野 ミライキーワードを考えていきましょう。

二宮 郷土愛でしょうか。

近藤 豊後高田愛。根幹はそれがないと。

小川 いいと思います。

中野 今日はどうもありがとうございました。

コーディネーター
大分合同新聞記者
中野暁男

才能に力を

すべての人の才能は、ちゃんと引き出されているか。

すべてのチームの、組織の才能は引き出されているか。

人と組織は、管理されるためにあるのではない。

最大限のパフォーマンスを発揮し、

この世界に、新しい価値を生み出すために存在する。

本来の才能を、正しく引き出す。それだけで、人は、もっと輝ける。

組織は、もっと強くなる。世界は、可能性で満ちあふれる。

才能は、無限大だ。

CYDAS
EMPOWERMENT COMPANY

CYDAS.com
エンパワーメント・プラットフォーム

すべての人の才能を引き出すクラウドベースの人材プラットフォーム。
3つのアプリケーションで構成されています。

Performance Cloud
[人材管理・分析・育成アプリケーション]

人材情報を可視化し、人材管理から分析までを可能に。最適な人材配置や能力開発、戦略的な組織づくりを実現します。

MBO Cloud
[目標管理・人事考課アプリケーション]

社員の目標を、経営目標や部門目標と連動させ、確かな会社の成果に結びつけることができます。

Stream
[社内ソーシャルアプリケーション]

今秋リリース決定!社内コラボレーションの起点となる、まったく新しいビジネスSNSです。

詳しくはこちら ▶